

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200106		
法人名	社会福祉法人 ガジュマル		
事業所名	グループホーム プルメリア		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字前牟田1896番地1		
自己評価作成日	令和6年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年3月21日	外部評価確定日	令和6年5月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一法人に特別養護老人ホーム、デイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、介護老人保健施設があり、協力関係がある。特に本部である特別養護老人ホームは同一敷地内にあり、緊急時の応援体制が整っている。

現在、新型コロナウイルス感染予防対策を重点的に行っている為、外出支援が中々できない状況であるが、入所者の方楽しんで過ごして頂けるよう毎日の集団体操や個別レクリエーション、また、月1回以上のイベントをホーム内で行っている。

生活機能向上連携加算を算定しており、希望者には月1回リハビリ指導員が来訪しており、作成された訓練メニューを毎日介護員が実施している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- 系列の病院から、理学療法士が月に1回来訪し、希望者にはその利用者に合ったリハビリのメニューを作成している。月に1回は評価し、見直しやアドバイスをを行っている。介護職員がメニューに沿ったリハビリを毎日行う事で、利用者の日常生活動作が維持できている事は、利用者・家族にとって安心に繋がっている。
- 職員からの提案で、インターネットを使った体操を多く取り入れるようになった。ユーチューブで、体操メニューが増え、口の体操など、テレビを見ながら楽しんで体操される事が増えている。
- 今年の1月から外出支援を開始し、今後行事なども徐々に増やしていきたいと考えられている。地域の福祉センター(おたっしゃ館)が車で2.3分の所にあり、イベントなども多く開催されているとの事。今後はイベントにもどんどん参加していきたいという、所長・管理者さんの思いが伺えた。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードを押す場所に張り出し、職員一人一人に理念が書かれたカードを配布しており、名札と一緒に持ち歩くようにしている。	タイムカードを押す場所に張り出し、職員一人一人に理念が書かれたカードを配布しており、名札と一緒に持ち歩くようにしている。	法人の理念はある。しかし、分かりやすい言葉でグループホーム独自の理念を見直したいとの思いから、職員一人ひとりの意見を聞き、「その人らしい笑顔あふれる生活を」と決定した。仕事中は理念に沿って「笑顔で接する事」を所長・管理者は伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、感染症が増加している為、地域との付き合いの交流を控えている。今後の感染状況を見ながら地域の行事にも参加していく。	現在、感染症が増加している為、地域との付き合いの交流を控えている。今後の感染状況を見ながら地域の行事にも参加していく。	感染症でできなかった外出も、今年の1月より行うようになり、家族との外出も、数組あり大変喜ばれた。近くの福祉センターには、以前のように月1回程度は行きたいと考えられている。また、以前は地域の方に食事を提供する行事も行っていた実績がある為、そちらも再開したいという思いがある。今後が楽しみである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、こまめに身体状況や生活状況を報告し、認知症についても理解できるような説明を心がけ行なっています。	ご家族様には、こまめに身体状況や生活状況を報告し、認知症についても理解できるような説明を心がけ行なっています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の途中まで書面会議だったが、現在は自施設内で会議を開催している。しかし、感染症予防のため、家族様・入居者様の参加は控えている。外出の行事や対面の面会も開始の報告を行なっている。今後も感染状況によっては、書面会議での開催になる。	今年の途中まで書面会議だったが、現在は自施設内で会議を開催している。しかし、感染症予防のため、家族様・入居者様の参加は控えている。外出の行事や対面の面会も開始の報告を行なっている。今後も感染状況によっては、書面会議での開催になる。	委員会のメンバーより、福祉センターのイベントの案内を聞いたり、防災訓練では区長より消防団、民生委員より地域住民の方に声をかけてもらい、一緒に訓練を行い、実際に車いすなどを押してもらうなど体験してもらっている。グループホームからの報告だけでなく、会議を通して、委員や地域と良い関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、上峰町役場職員、上峰地域包括支援センターも委員として参加するようになっている。運営会議実施報告は2か月に1回実施している。何かあれば相談しており、協力体制ができています。	運営推進会議には、上峰町役場職員、上峰地域包括支援センターも委員として参加するようになっている。運営会議実施報告は2か月に1回実施している。何かあれば相談しており、協力体制ができています。	地域包括支援センターからは入居申込を尋ねられたり、相談される事も多い。また、地域のイベントで会ったり、3か月に1回は地域の会議にも参加し、事例発表を行ったり、良い関係は築けている。待機者がいない時は、グループホームから連絡し、尋ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束はしていない。身体拘束委員会や身体拘束に関する職員研修を行なって、職員に周知徹底を図っている。スピーチロックについても注意している。玄関の施錠は防犯上夜間のみ施錠しているが、その他は開錠している。	現在、身体拘束はしていない。身体拘束委員会や身体拘束に関する職員研修を行なって、職員に周知徹底を図っている。スピーチロックについても注意している。階段の施錠は防犯上夜間のみ施錠しているが、その他は開錠している。	玄関の施錠は行っていない。外に出ていきたい利用者へは散歩を一緒にしている。センサーマットはトイレの把握のため夜間のみ使用している。所長・管理者は、利用者の精神的な状況が職員の声かけ一つで変わるという事を留意し、スピーチロックの一つである「待つ」という言葉にもその理由を説明する事を伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会や虐待に関する研修会を行っており、不適切ケアやグレーゾーン含め、虐待の理解を深め防止を徹底している。毎年の虐待の芽チェックリストも行なっている。	虐待防止委員会や虐待に関する研修会を行っており、不適切ケアやグレーゾーン含め、虐待の理解を深め防止を徹底している。毎年の虐待の芽チェックリストも行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や権利擁護に関する研修会を行っており、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や権利擁護に関する研修会を行っており、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、料金や介護保険改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、わかりやすく説明を行い理解・納得を図っている。必要時には同意書にサインを頂いている。	契約時、料金や介護保険改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、わかりやすく説明を行い理解・納得を図っている。必要時には同意書にサインを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが意見は、入っていない。面会時や電話連絡時・またはホームページから意見は出る。現在は、面会時と電話対応時、面会についてや外出外泊について・生活状況の確認に関しての意見が多い。意見の中で反映できる意見は反映するよう努めている。意見が出たときは職員間で共有している。	玄関に意見箱を設置しているが意見は、入っていない。面会時や電話連絡時・またはホームページから意見は出る。現在は、面会時と電話対応時、面会についてや外出外泊について・生活状況の確認に関しての意見が多い。意見の中で反映できる意見は反映するよう努めている。意見が出たときは職員間で共有している。	利用者・家族からは、感染症に関する問い合わせは多くみられた。1月より、居室での面会をできるようにしており、直接顔を合わせて意見を聞けるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアでの会議と1・2階合同での全体会議を毎月行っており、職員の意見や提案を聞ける時間を設け反映すべき点は反映している。各個人の悩み等個別で対応が必要な時は、時間を設け個別で面談を行っている。	各フロアでの会議と1・2階合同での全体会議を毎月行っており、職員の意見や提案を聞ける時間を設け反映すべき点は反映している。各個人の悩み等個別で対応が必要な時は、時間を設け個別で面談を行っている。	毎月会議を行っており、その中で利用者のケアだけでなく、業務の効率についても意見は出ている。所長・管理者は人間関係が利用者の支援にもつながるとの思いから、職員が働きやすく、意見を言いやすいような環境を作っている。職員の要望でテレビでインターネットを使えるようにするなど、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、昇級などに活かしている。また、毎年適正申告書の提出があり、職場に対する意見・異動の希望などが言える機会になっている。	人事考課制度があり、昇級などに活かしている。また、毎年適正申告書の提出があり、職場に対する意見・異動の希望などが言える機会になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員や異動職員に関しては、研修を行い、円滑に業務にあたるようにしている。能力に応じて研修期間の延長など対応している。施設内の研修は積極的に参加しているが、施設外研修は、コロナウイルス流行後は、参加控えている。	新任職員や異動職員に関しては、研修を行い、円滑に業務にあたるようにしている。能力に応じて研修期間の延長など対応している。施設内の研修は積極的に参加しているが、施設外研修は、コロナウイルス流行後は、参加控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や施設ネットワーク会議・施設外研修への参加にて勉強やネットワーク形成に繋がっている。法人内他事業所と職員とは委員会や入居者の入退所支援で関わりを持ってサービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や施設ネットワーク会議・施設外研修への参加にて勉強やネットワーク形成に繋がっている。法人内他事業所と職員とは委員会や入居者の入退所支援で関わりを持ってサービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人様と会い、事前調査を行なって入居時になるべく過ごしやすい環境を提供できるようにしている。入居後は、できるだけコミュニケーションを図り、不安の軽減を少なくし、信頼関係を築けるよう努めている。	入居前には必ず本人様と会い、事前調査を行なって入居時になるべく過ごしやすい環境を提供できるようにしている。入居後は、できるだけコミュニケーションを図り、不安の軽減を少なくし、信頼関係を築けるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から困っていることや要望・疑問点・相談など、聞くようにし解決策を考えている。入居後も、何かあれば職員へ気軽に話せるように関係づくりに努めている。	入居相談から困っていることや要望・疑問点・相談など、聞くようにし解決策を考えている。入居後も、何かあれば職員へ気軽に話せるように関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ずご家族様へ連絡を行い、事前調査をした上で調査票を作成。その情報から必要な事や対応策を話し合い、準備を行い、入居されてからも職員間で共有を行い、随時、支援内容を検討し支援している。	入居前には必ずご家族様へ連絡を行い、事前調査をした上で調査票を作成。その情報から必要な事や対応策を話し合い、準備を行い、入居されてからも職員間で共有を行い、随時、支援内容を検討し支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に必要な支援を行い、過剰な支援をなるべくしないようにして、残存機能を活かした支援を行なっている。家庭的な雰囲気を作りなんでも職員へ話せるように努めている。	本人に必要な支援を行い、過剰な支援をなるべくしないようにして、残存機能を活かした支援を行なっている。家庭的な雰囲気を作りなんでも職員へ話せるように努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご家族様の支援が必要なことを伝え、状態をこまめに報告するようにしている。面会は居室で行なっており本人・家族感を大切にする支援に努めている。	入居後もご家族様の支援が必要なことを伝え、状態をこまめに報告するようにしている。面会は居室で行なっており本人・家族感を大切にする支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も主治医を変更しなくてもよい。訪問診療がない病院のかかりつけ医なら家族が受診対応となる場合あり。外出時や受診時には、なるべく馴染みの場所を通り、関係が途切れないよう、支援に努めている。面会は家族だけでなく友人や地域の方も来られている。	入居後も主治医を変更しなくてもよい。訪問診療がない病院のかかりつけ医なら家族が受診対応となる場合あり。外出時や受診時には、なるべく馴染みの場所を通り、関係が途切れないよう、支援に努めている。面会は家族だけでなく友人や地域の方も来られている。	入居後は電話での問い合わせがあったり、直接会いに来られる地域の方もおられ、関係が継続している方もいる。外出時は、家の前を通るなどし、喜ばれる方も多い。馴染みの関係を続けてもらうために、訪問診療ができる主治医であれば、まずそこに依頼し、状態を知っている主治医の方に長く診てもらいたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席は、会話がしやすいような方を同じテーブルにしている。毎日の集団レクリエーションや体操・月1～2回、合同イベントを行なって、多くの方と関わりを持てるようにしている。	リビングでの席は、会話がしやすいような方を同じテーブルにしている。毎日の集団レクリエーションや体操・月1～2回、合同イベントを行なって、多くの方と関わりを持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて連絡を行い、今後の生活や介護サービスに関して相談にのったり支援することもある。最近では、再入居希望される方も多い。	退所後も必要に応じて連絡を行い、今後の生活や介護サービスに関して相談にのったり支援することもある。最近では、再入居希望される方も多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネジャーは、計画作成時、入居者・ご家族の希望や意向をマンツーマンで聞く機会をとっている。意思疎通が厳しい方は普段の表情や生活状況などを読み取り意向をくみ取れるように努めている。職員は、なるべく多くコミュニケーションを図り、必要時は、ケアマネジャーへ報告し、本人ご家族の意向に沿った支援をしている。	ケアマネジャーは、計画作成時、入居者・ご家族の希望や意向をマンツーマンで聞く機会をとっている。意思疎通が厳しい方は普段の表情や生活状況などを読み取り意向をくみ取れるように努めている。職員は、なるべく多くコミュニケーションを図り、必要時は、ケアマネジャーへ報告し、本人ご家族の意向に沿った支援をしている。	個々の希望があれば叶えられる範囲で支援をし、意向を聞けない場合は、家族に話を聞くなど把握している。以前趣味で編み物をしていた利用者には、編み物を持って来てもらったり、お花の師範だった利用者には、外部からお花を発注し活けてもらう事もあった。好きな食べ物なども聞いて、おでん・餃子パーティをするなど、意見を反映し、希望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査時には本人に生活歴などを聞き、ご家族様には、入居申し込み時や契約時に聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査時には本人に生活歴などを聞き、ご家族様には、入居申し込み時や契約時に聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく日々の記録を行い毎月の会議にて職員間で現状の把握や共通認識に努めています。状態の急変などがある時も電子カルテに記録を残し、いつでも確認できるようにしている。	細かく日々の記録を行い毎月の会議にて職員間で現状の把握や共通認識に努めています。状態の急変などがある時も電子カルテに記録を残し、いつでも確認できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向の把握等課題を抽出しプラン作成につなげている。現在、サービス担当者会議は職員で行なっているが、ご家族様には面会時や電話連絡で説明了承を得ている。	ご本人・ご家族の意向の把握等課題を抽出しプラン作成につなげている。現在、サービス担当者会議は職員で行なっているが、ご家族様には面会時や電話連絡で説明了承を得ている。	計画書の見直しは、リハビリを行っている利用者は3か月おきだが、通常は半年に1回行っている。家族には意向を尋ね計画書に反映している。毎月行う職員の会議で、利用者のケアについて話し、ケアの内容を統一している。計画書には健康面や診療について、必ず記載しており、対応ができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はなるべく細かく行き、どんな状態だったか、表情なども記載するようにしている。内服の追加など変更があればその都度記録を行い、状況把握・プラン見直しに繋げている。	記録はなるべく細かく行き、どんな状態だったか、表情なども記載するようにしている。内服の追加など変更があればその都度記録を行い、状況把握・プラン見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に沿った対応を心がけており、原則ご家族対応の受診でも、送迎のみホームで対応したり、受診そのものを対応もしている。日用品の準備も家族から依頼されたときはホームで対応している。その人にとってより良い生活になると判断すれば他事業所を紹介・提案することもある。	状況に沿った対応を心がけており、原則ご家族対応の受診でも、送迎のみホームで対応したり、受診そのものを対応もしている。日用品の準備も家族から依頼されたときはホームで対応している。その人にとってより良い生活になると判断すれば他事業所を紹介・提案することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じて福祉タクシーやシルバー人材の活用も行うようになっているが現在は利用されている方はいない。	希望に応じて福祉タクシーやシルバー人材の活用も行うようになっているが現在は利用されている方はいない。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居時にこれまでの主治医をホーム の協力医療機関に変更する必要 はないため、一人ひとり主治医は異 なる。受診は原則家族対応、往診 はホーム職員対応としているが、状 況に応じて職員が受診付き添い対 応している。受診であっても往診で あっても状況報告書を作成し適切な 医療を受けられるように支援してい る。	入居時にこれまでの主治医をホーム の協力医療機関に変更する必要 はないため、一人ひとり主治医は異 なる。受診は原則家族対応、往診 はホーム職員対応としているが、状 況に応じて職員が受診付き添い対 応している。受診であっても往診で あっても状況報告書を作成し適切な 医療を受けられるように支援してい る。	協力医は系列の病院であるが、 元々のかかりつけ医が訪問診療を されていれば、まず優先してこれま でのかかりつけ医にお願いしてい る。グループホームの近くに精神科 があり、精神科の往診も来てもらっ ている。協力医とは24時間連絡が 取れる体制も整えており安心でき る。同敷地内に特別養護老人ホーム もあるため、簡単な処置などは受 ける事ができる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえ た情報や気づきを、職場内の看護職員や 訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利 用者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	医療連携加算を算定しており、24時 間看護師に相談できる体制があ る。何かあればアドバイスをもらい、 受診の判断をしてもらっている。また、 特別養護老人ホームが併設し ており、救急を要する場合は、 特養の看護師へ連絡を行ない相談 や対応協力を行なっている。	医療連携加算を算定しており、24時 間看護師に相談できる体制があ る。何かあればアドバイスをもらい、 受診の判断をもらっている。また、 特別養護老人ホームが併設し ており、救急を要する場合は、 特養の看護師へ連絡を行ない相談 や対応協力を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や 相談に努めている。又は、そうした場合に 備えて病院関係者との関係づくりを行って いる。	状態の悪化があれば受診で済むよう 、また入院しても早期退院できる よう、重度化する前に早めに受診す るよう努めている。入院時にはす ぐにサマリー作成し病院と連携を 図っている。	状態の悪化があれば受診で済むよう 、また入院しても早期退院できる よう、重度化する前に早めに受診す るよう努めている。入院時にはす ぐにサマリー作成し病院と連携を 図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を 説明している。実際に重度化された 場合は、管理者が状況説明を行 い、ホームでできる対応などを改め て詳細に説明。必要があれば主治 医やケアマネジャーなども同席し今 後の生活および支援について検討 する。	契約時に重度化した場合の指針を 説明している。実際に重度化された 場合は、管理者が状況説明を行 い、ホームでできる対応などを改め て詳細に説明。必要があれば主治 医やケアマネジャーなども同席し今 後の生活および支援について検討 する。	入居時、同敷地内に特別養護老人 ホームがあることを含めて説明して おり、入浴支援や医療などの対応 が難しくなってきた場合は、住み替 えを提案している。しかし、住み慣 れたグループホームでの生活を希 望される入居者・家族にはギリギリ まで生活ができるよう支援をしてい る。同敷地内に特別養護老人ホーム があることは、家族にとって先々 を考えた時に安心の一つとなってい る。	



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に関するマニュアルがあり、入職・異動時に説明している。また、随時研修を行っている。	急変や事故発生時に関するマニュアルがあり、入職・異動時に説明している。また、随時研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災及び災害マニュアル、連絡網がある。避難訓練や災害訓練も行っており、避難方法を身につけている。併設している特別養護老人ホームからの応援体制もあり、特別養護老人ホームに備蓄も整備している。防災訓練時には地域住民消防団の参加も行なっている。	火災及び災害マニュアル、連絡網がある。避難訓練や災害訓練も行っており、避難方法を身につけている。併設している特別養護老人ホームからの応援体制もあり、特別養護老人ホームに備蓄も整備している。防災訓練時には地域住民消防団の参加も行なっている。	火災避難訓練は、実際に煙を使ってリアルな訓練を実施され、地域住民や消防団の参加もある。ハザードマップでは水害の被害は想定されていないが、台風や地震などは考えられる。同敷地内の建物が、地域の避難指定場所にもなっており、グループホームでも、1次は垂直避難、2次避難は特別養護老人ホームへ避難することとなっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修を行っている。馴れ馴れしい言葉遣いに注意しつつ、その人に合った声掛けなど一人一人に合った会話方法を心がけている。また、排泄や更衣時などプライバシーに配慮した対応を心がけている。入居者の近くで申し送りを行う場合は、イニシャル等で配慮することもある。	接遇についての研修を行っている。馴れ馴れしい言葉遣いに注意しつつ、その人に合った声掛けなど一人一人に合った会話方法を心がけている。また、排泄や更衣時などプライバシーに配慮した対応を心がけている。入居者の近くで申し送りを行う場合は、イニシャル等で配慮することもある。	利用者の性格を把握し、個別に対応している。接遇と認知症のケアは大事と考え、毎年研修を行い力を入れている。所長・管理者も現場でケアが気になった時は、その時に職員へ伝えていく。排泄の場面では、声かけの仕方など羞恥心に配慮し、パットの確認などもさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアマネジャーが計画作成時に聞き取りを行うほか、職員が支援しているときに「何がしたいか」等希望を伺っている。発言が少ない方も自己決定できるように開かれた質問だけでなく閉じた質問も活用している。	ケアマネジャーが計画作成時に聞き取りを行うほか、職員が支援しているときに「何がしたいか」等希望を伺っている。発言が少ない方も自己決定できるように開かれた質問だけでなく閉じた質問も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務は、後回しにしてもよい所は融通を利かすようにし、臨機応変な対応を心掛けている。業務優先にしない。また、レクリエーションや体操、イベントなども無理強いしてまでの参加はしないようにして本人の意思に沿って支援している。	職員側の業務は、後回しにしてもよい所は融通を利かすようにし、臨機応変な対応を心掛けている。業務優先にしない。また、レクリエーションや体操、イベントなども無理強いしてまでの参加はしないようにして本人の意思に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や、季節に合った希望の衣類を選ぶ支援をしたり、訪問整容を希望される方には理想の髪型を伝達するお手伝いをしている。また、化粧をされる方、肌のお手入れをされる方もいる。必要な場合は、化粧品をお預かりし、希望時に提供するようにし、安全に配慮し、使用できるよう支援している。	毎日の整容や、季節に合った希望の衣類を選ぶ支援をしたり、訪問整容を希望される方には理想の髪型を伝達するお手伝いをしている。また、化粧をされる方、肌のお手入れをされる方もいる。必要な場合は、化粧品をお預かりし、希望時に提供するようにし、安全に配慮し、使用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、一緒に食事の準備や片付けができる方はいないが、出来る方には、台拭きや消毒のお手伝いをして頂いている。行事でのおやつ作りで入居者の方が出来そうなメニューを考え、一緒に作っている。	現在、一緒に食事の準備や片付けができる方はいないが、出来る方には、台拭きや消毒のお手伝いをして頂いている。行事でのおやつ作りで入居者の方が出来そうなメニューを考え、一緒に作っている。	利用者には、テーブルの消毒やキッチンまで食器を運んでもらうなど、できる家事を手伝ってもらっている。嗜好品に関しては家族の意向を聞き、許可をもらえば提供できる。晩酌や炭酸飲料、漬物なども個人負担で希望されれば毎日提供している。毎年の敬老会では、仕出し屋から注文をとり、豪華な食事を楽しまれている。利用者の食べたい物などを尋ねて、パーティをするなど食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスを考え、献立作成し、本人に合った形態の食事を提供している。ホーム職員は、本人の食事・水分量を把握し、摂取量の少ない方には摂取して頂けるような声のかけ方や提供の仕方を工夫するようにしている。	管理栄養士が栄養バランスを考え、献立作成し、本人に合った形態の食事を提供している。ホーム職員は、本人の食事・水分量を把握し、摂取量の少ない方には摂取して頂けるような声のかけ方や提供の仕方を工夫するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをするようにしており、自立されていない方はもちろん、ケアが不十分な方にも声をかけたり、磨き残しを介助をするようにしている。場合によっては、マウススポンジを家族へ依頼し一人一人に合った支援を行っている。	毎食後、口腔ケアをするようにしており、自立されていない方はもちろん、ケアが不十分な方にも声をかけたり、磨き残しを介助をするようにしている。場合によっては、マウススポンジを家族へ依頼し一人一人に合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、一人一人に合った時間の誘導に努めている為、パットのサイズもその都度評価しその人に合ったサイズを使用している。また、できるだけトイレで排泄して頂けるように、職員がいる時は2名介助で対応する事もある。	排泄パターンの把握に努め、一人一人に合った時間の誘導に努めている為、パットのサイズもその都度評価しその人に合ったサイズを使用している。また、できるだけトイレで排泄して頂けるように、職員がいる時は2名介助で対応する事もある。	できるだけトイレで排泄ができるように支援をしている。1名で介助が難しい場合は2名で行っている。夜間のみオムツの利用者もいるが、ポータブルトイレを使用し安全に排泄ができるよう支援している。職員にも、パットやオムツ代が家族の負担になっている事を認識してもらうよう、安易に使わず、こまめにパットの変更を考える事など常に伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘での悪影響については理解しており、水分量や乳製品の使用を調整したり、運動や腹部マッサージを促したりしている。主治医に相談し、緩下剤による排便コントロールを行っている方もいる。	便秘での悪影響については理解しており、水分量や乳製品の使用を調整したり、運動や腹部マッサージを促したりしている。主治医に相談し、緩下剤による排便コントロールを行っている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週2回以上である。14～16時の間の時間帯である事は決まっているが、曜日の固定はない。個浴とリフト浴があり、その方の状態に応じた入浴方法を行って安全・安心な入浴に配慮している。シャンプー類は持ち込みとなっており、各々が好きなものを用意されている。	入浴は、週2回以上である。14～16時の間の時間帯である事は決まっているが、曜日の固定はない。個浴とリフト浴があり、その方の状態に応じた入浴方法を行って安全・安心な入浴に配慮している。シャンプー類は持ち込みとなっており、各々が好きなものを用意されている。	入浴回数は週に2、3回。毎日沸かしているため、体調や気分などで入られない場合にも臨機応変に対応している。リフト浴も完備しており、座位が保てれば安全に入浴ができるようになっている。毎月、26日(フロの日)前後に色々な入浴剤を入れて、いつもと違うお風呂を味わってもらうなど、入浴の楽しみを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に過ごされるように、室温・湿度管理を徹底し、夜間は、できるだけパジャマ更衣をして頂いている。日中午睡される方もいたり、就寝時間もその人によって異なる対応をしている。希望される方にはポータブルトイレを準備したり、オムツを使用している。	快適に過ごされるように、室温・湿度管理を徹底し、夜間は、できるだけパジャマ更衣をして頂いている。日中午睡される方もいたり、就寝時間もその人によって異なる対応をしている。希望される方にはポータブルトイレを準備したり、オムツを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての研修も行っており、目的や副作用について理解している。管理は職員がしており、薬情を個人ファイルに閉じ、すぐに確認でき、配薬ミスや誤薬のないよう注意している。何かあれば、主治医や薬局に確認している。	服薬についての研修も行っており、目的や副作用について理解している。管理は職員がしており、薬情を個人ファイルに閉じ、すぐに確認でき、配薬ミスや誤薬のないよう注意している。何かあれば、主治医や薬局に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の集団レクリエーションや体操だけでなく、個別学習や個別レクリエーションの支援も行っており、塗り絵・パズルや計算プリントなどその人に合ったもの、好まれる事をされており、準備や環境作りの支援をしている。また、洗濯物たたみなどのお手伝いをされる方もいる。	毎日の集団レクリエーションや体操だけでなく、個別学習や個別レクリエーションの支援も行っており、塗り絵・パズルや計算プリントなどその人に合ったもの、好まれる事をされており、準備や環境作りの支援をしている。また、洗濯物たたみなどのお手伝いをされる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスが5類に移行後、外出行事を行っています。また正月外出時は、家族送迎が難しい車いす利用の入居者に対して送迎を行い、本人の希望を把握し出かけられるように支援している。	コロナウイルスが5類に移行後、外出行事を行っています。また正月外出時は、家族送迎が難しい車いす利用の入居者に対して送迎を行い、本人の希望を把握し出かけられるように支援している。	1月より外出支援を開始し、家族にも外出ができるようになったことを伝え、家族が送迎が難しい場合は、職員で送迎し喜ばれている。日常的には、時間がある時にグループホームの周りを散歩し、気分転換を図っている。これから、以前のような外出支援を行っていきたいと考えられているため楽しみである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はしていない。現在、該当者はいないが、入居者によっては、現金持参の方もいらっしゃるが、責任は負えないことを理解してもらったうえで持参されている。	金銭管理はしていない。現在、該当者はいないが、入居者によっては、現金持参の方もいらっしゃるが、責任は負えないことを理解してもらったうえで持参されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りの支援はしている。携帯電話を持参されている方もいるが、中には難聴だったり、操作が分からない方もおり、使用時にお手伝いしている。携帯電話使用の際は、トラブルを避けるため、必要最小限で操作し、なるべく操作しないように心がけている。	電話や手紙のやり取りの支援はしている。携帯電話を持参されている方もいるが、中には難聴だったり、操作が分からない方もおり、使用時にお手伝いしている。携帯電話使用の際は、トラブルを避けるため、必要最小限で操作し、なるべく操作しないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度管理や環境整備に努めている。ブラインドでの採光調整や、換気・消毒も毎日行っている。また、廊下等に季節の飾りつけや、イベント写真を飾って、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室温・湿度管理や環境整備に努めている。ブラインドでの採光調整や、換気・消毒も毎日行っている。また、廊下等に季節の飾りつけや、イベント写真を飾って、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは窓から陽射しが入り明るい空間である。利用者はソファやテーブルで思い思いに過ごされている。トイレには消臭剤やスプレーが置いてあり、臭いにも配慮されている。リビングにも、空間除菌がされており、嫌な臭いもない。各グループホームにはディスプレイ担当者があり、季節の飾りつけがされている。飾りつけは利用者と一緒に作ることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が同じテーブルになるよう配慮している。また、リビングにはソファがあり、ソファで寛がれる方もいたり、リビングの中でも時々自席でなく、お気に入りの他の場所に座られる方もいる。日向ぼっこしながら過ごされる座椅子も設置している。	気の合う入居者同士が同じテーブルになるよう配慮している。また、リビングにはソファがあり、ソファで寛がれる方もいたり、リビングの中でも時々自席でなく、お気に入りの他の場所に座られる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室であり、各自思い思いのものを持参されている。テレビや座椅子などを持参されたり、使い慣れた毛布やタンスを持参されている。家具等の配置は、本人様と協議して使い勝手の良いように設置している。	全室個室であり、各自思い思いのものを持参されている。テレビや座椅子などを持参されたり、使い慣れた毛布やタンスを持参されている。家具等の配置は、本人様と協議して使い勝手の良いように設置している。私物の管理が難しい方は、家族の了承の下で職員が倉庫で管理している。	お部屋にはクローゼットが備え付けられ、丁度良い広さのお部屋である。持ち込みの制限は特にない。使い慣れたものを持って来てほしいとお願いをしている。仏壇を持ち込まれている利用者もいる。テレビを持って来られている利用者もいる。また、各居室に空間除菌を置いており、感染症の予防にもつながっている。現在は、面会が居室のできるため、家族と利用者がゆっくりと寛げる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーであり、手すりが各所にあり、居室入り口にネームプレートを設置している。自室入り口の見えやすい位置にネームを貼り出して、場所が分かりやすいように配慮している。また、必要な方には起立バーを設置し、安全に移乗出来るようにしている。	建物内は、バリアフリーであり、手すりが各所にあり、居室入り口にネームプレートを設置している。自室入り口の見えやすい位置にネームを貼り出して、場所が分かりやすいように配慮している。また、必要な方には起立バーを設置し、安全に移乗出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)			1. ほぼ全ての利用者の
		○	○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)			1. 毎日ある
		○	○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。  (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。  (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。  (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない